# 洋上アルプス

No.340　2023年7月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL　0997-42-0331


## 令和5年度 シャクナゲ開花時期における登山指導（5月29日～6月3日）

屋久島森林管理署と当保全センターでは、例年登山者が多くなる５月下旬から６月上旬のシャクナゲ開花時期に合わせ、高山植物の盗掘防止と登山者のマナー向上を目的に森林パトロールを実施しています。

**１．永田岳コース**　天候が不安定だったためか登山者には一人も出会いませんでしたが、ヤクシマシャクナゲをはじめサクラツツジなどの開花も見られました。頂上付近の登山道については大きく荒れている箇所があり、登山者の安全のみならず植生への影響も心配されます。

**２．黒味岳コース**　天候に恵まれたこともあり、25名（内宿泊者９名）の方が登山を楽しんでいました。登山者は多く見られたものの、マナー等に関して問題なく登山をしていました。ヤクシマシャクナゲはピークを過ぎていましたが満開に近い状態で咲いていました。

ヤクシマシャクナゲ

職員によるパトロール

**３．太忠岳コース**　梅雨時期だったため登山者は３名と普段よりは少ない状況でした。登山道に関しては一部整備が必要な箇所が見受けられましたが、当面は問題なく登山を行うことができます。ヤクシマシャクナゲは、頂上付近で開花が見られました。

**登山者の皆様へ**

植物や環境保全のため、樹皮を剥ぐ・採取をするといった植物を傷つける行為、歩道から外れることに注意を、ごみは必ず持ち帰ること、トイレは決まった場所でする、携帯トイレの利用にご協力をお願い致します。なお、植物等に異変を発見した場合は当保全センターへご連絡をお願い致します。

## 屋久島世界遺産地域連絡会議第１回幹事会・検討の場を開催（6月6日）

第１回幹事会・検討の場

令和5年度屋久島世界遺産地域連絡会議 第１回幹事会及び検討の場が、6月6日（火）に鹿児島森林管理署会議室において開催されました。

地域連絡会幹事会の主な議題として、①令和4年度の第2回科学委員会の議論の整理について、②世界遺産地域管理計画に基づく事業実績及び令和5年度事業予定について、③令和5年度第１回科学委員会の開催について、④屋久島高層湿原保全対策について等、各機関から説明がありました。

九州森林管理局からは、屋久島高層湿原保全対策の概要説明があり、令和5年度に実施する保全対策（素案）の説明がありました。委員からは、パブリックコメントの対応について、地域に向けた説明や発信は行った方が良いとの意見があり、屋久島町の広報へ折り込みチラシを入れる、町のホームページに掲載は可能との意見が出されました。また、課題解決のための場の設置について、し尿処理対策、管理者不在の登山道等の問題について、部会を設置する形でなく、まずは関係機関と検討する場を設けたいとの意見が出されました。（次ページに続く）

（前ページから続く）検討の場では、7月中旬に開催予定のヤクシカWGに報告等する令和4年度の各機関の取組状況や令和5年度の取組概要について説明があり、意見交換等が行われ特にシカ捕獲等連携すべきところを適切に実施していくことなどを確認しました。

## 地元中学生が職場を体験学習（5月23日～25日）

屋久島森林管理署では5月23日から25日までの3日間、屋久島町立安房中学校の授業の一環として行われる職場体験学習を受け入れました。

安房中学校では、①実際に働く体験を通して勤労の尊さを肌で感じその意義を理解し、望ましい職業観や勤労観を持たせる、②社会人として自立するための態度や能力を養い、職業や進路選択について考える機会とし、③地域と社会との繋がりを深め、郷土を愛しその発展に努め、地域社会に貢献する態度を養う目的で職場体験学習を実施しています。

今回、当署には3年生の2名が応募し、職場体験をすることになりました。

1日目は、お互いの自己紹介の後、当署の概要、森林の果たす役割などについて説明しました。特に、森林と水との関わりについては屋久島の水の美味しさに触れ、美味しい水がもたらすお酒との関わりについてもユーモアを交えて説明するなど、楽しい雰囲気の中で森林について学んでもらいました。

2日目は、治山工事の現場を見学し、立山総括治山技術官から治山工事の目的や種類などの説明を受け、災害から人の生活を守るための治山工事の重要性について学びました。その後、当署の敷地内でトランシットを使った閉合測量に挑戦し、

森林の仕組、役割を学ぶ

測量の体験

難しい操作に苦戦しながら境界の管理や測量のことを学びました。

3日目は、間伐実行中の現地において、間伐の必要性について理解を深めた後、実際に伐倒作業の様子を見学し、私達の生活の中でどのように木材が利用されているのかについて学び、3日間の職場体験学習を終了しました。

職場体験学習を受けた2名の生徒からは、後日「測量は難しく頭を使う仕事だったが、できた時は自分の中で達成感がありました。」、「森林管理署は森林管理だけでなく、災害の防止や、伐木、道作り、木材の搬出など私達の日常生活に深く関わっていることが分かった。」といったお礼の手紙が届きました。

当署では、今後も職場体験等を受け入れることにより、森林・林業への理解の醸成等に取り組んでいきたいと考えています。

## 屋久島高校に学校登山の事前指導を実施（6月20日）

6月20日（火）屋久島高校において、例年7月に予定されている学校登山に向けて、1年生71名を対象に当保全センター職員による登山マナー等の事前指導を行いました。

学校登山の目的は、登山に対する心構えやマナーを再確認するとともに、郷土の優れた自然環境や自然と人間との結びつきを考え、環境保護に対する意識の高揚を図るものです。

今回の事前指導では、登山に関する基本的なマナーや注意点の指導、携帯トイレの利点や使用方法の解説を行ったのち、生徒を交えて携帯トイレの実物を用いた実演も行ったほか、最後に学校登山の経験を通して屋久島の貴重な自然環境や、そこから学べる多くのことについての講話を行うことができました。

今回の事前指導を通じて、生徒たちの登山マナーの向上と自然環境保全への意識を高めることができました。

生徒による携帯トイレの実演

# サツキは渓流植物なのか？ ―サツキは山頂にあった！―

崎尾均（新潟大学佐渡自然共生科学センター・Botanical Academy）

サツキの本格的な分布調査を始めるにあたって，やみくもな調査は効果的ではない．地元の自然を知り尽くしたガイドの力を借りることにした．

2021年11月にSNSで10名程度の協力者のグループを作り，サツキを見たら位置情報，写真などをグループで共有した．その後，続々とサツキの分布情報が寄せられた．

その結果は，驚くべき内容であった．もちろん，サツキが多くの河川や渓流際に分布するという情報は多かった．安房川や宮之浦川では河口周辺から上流域まで確認されたし，永田川，大川，中間川，鈴川，小田汲川，楢川，一湊川にも分布していた．

一方で，この常識（サツキの分布は河川や渓流の岩場）を覆す情報が続々と集まってきた．多くの山頂に普通に分布しているというのである．

名の知れた山では，愛子岳（写真１）やモッチョム岳，そのほかにガイドが確認した山は明星岳，安房前岳，破沙岳（写真２），七五岳，ひづくし山，カンカケ岳，一湊岳，割石岳，あるかも知れないという未確認情報では耳岳，国割岳，吉田岳である．しかし，宮之浦岳，黒味岳，永田岳などの奥山では確認できないということであった．また，ジトンジ岳や芋塚山などのように山頂全体が高木で覆われている箇所にも分布は見られなかった．

サツキが分布する山頂の共通した特徴は，標高が1410m（割石岳）より低く，山頂に高木がなく直射光がよく当たり，岩盤が剥き出しになっているという環境であった．

またこの環境は，河川周辺の環境と酷似している．河川敷では洪水のために高木が侵入できずに直射光がよく当たる．また，大きな岩盤や大礫があり，それらの割れ目や礫の間に根を張っている．

これらの立地は長期間安定しており，よほどのことがない限り動くことはない．つまり，山頂と河川内では光環境や土壌環境が共通していた．大きな違いというと，河川では水分が豊富であるのに対して，山頂は乾燥する傾向にあるということだ．

これらの情報を確かめるべく，一つ一つの山頂や渓流の情報を確認するフィールド調査が始まった．

位置情報はあるものの，アクセスの厳しい山や谷は，ガイドの方に案内をお願いした．早朝に宿を出て，真っ暗になって帰ってくることもしばしばであった．また，1週間屋久島に滞在して，連日の大雨のために1日も満足な調査ができないなどフィールド調査の厳しさを思い知らされたこともあった．（つづく）

**写真1　愛子岳山頂のサツキ．山頂周辺に高い密度で分布している．大部分の個体が岩の割れ目に定着している．**

**写真2　破沙岳山頂のサツキ．赤っぽく紅葉している低木がサツキ．山頂周辺の開けた岩場の割れ目に根を張っている．**

## 屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

**[標高600mプロット（愛子岳東側北西向き平行急斜面）]** 確認種数：83種（平成28年度：57種）

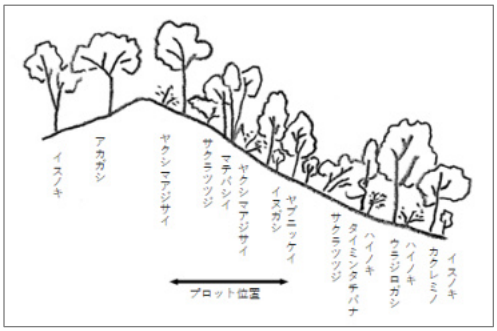
**◆調査結果の概要**　照葉樹を優占種とする広葉樹二次林である。5年間で大きな攪乱は見られず、高木層はイスノキが優占し、スダジイも比較的健全である。また亜高木層は本数が安定して多い。これはサクラツツジ等が突出して多く、ハイノキ等、高木層への移行が少ない種で構成されているためである。亜高木層以下の階層はシカの採食圧を強く受けた種構成であるが、草本層はヤクシマアジサイが優占し、スダジイの実生が散見され、ハリギリ等の冷温帯性の種が暖温帯性の種に混じって出現する。

**◆優占種の変化**

| 階層区分 | 平成13年度 | 平成18年度 | 平成23年度 | 平成28年度 | 令和3年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高木層（6.0m以上） | スダジイ | スダジイ | スダジイ | スダジイ | イスノキ |
| 亜高木層（3.0m～6.0m） | サクラツツジ | サクラツツジ | サクラツツジ | サクラツツジ | サクラツツジ |
| 低木層（1.2m～3.0m） | ハイノキ | タイミンタチバナ | タイミンタチバナ | タイミンタチバナ | タイミンタチバナ |
| 草本層（1.2m未満） | ヤクシマアジサイ | ヤクシマアジサイ | イヌガシ | イヌガシ | ヤクシマアジサイ |

H28（5年前）のプロット内

R3（本年度）のプロット内




標高 600mプロットの群落縦断図

## グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より　～花と景色～

### ヤクシマタツナミ

ヤクシマタツナミは6月7日、太忠岳までのパトロール中に天文の森付近で見つけました。

標高1,000mを超える高地で日陰となる登山道脇でよく見かけます。和名は屋久島産の立浪草の意味で、花は口を大きく開けて登山者にエールを送ってくれているようにも感じます。

### コケスミレ

コケスミレは6月23日、黒味岳までのパトロール中に見つけました。

屋久島の高層湿原だけに生育する固有変種でツボスミレの変種とのことです。白くかわいらしいのですが、湿原のコケに混じって咲くので、見過ごされがちです。